

2002年12月号

Enfanter ● No.284

あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む ②(計画などを)考え出す ③(作品などを)創り出す、の意

戦争

戦争は人を消す。
戦争は町を消す。
戦争は平和を消す。

戦争からはなにも生まれはない。
ある国のだれかとする国のだれか。
したい人がけんかをすればいい。
戦争をしたくない人まで
まきこむ必要はない。

詩・今井

イラスト・後藤



【特集】平和を創ろう

・あんふぁんてからあんふぁんてへ P 9
・事務局から P 11



・会計報告
・情報コーナー

P 12 P 10 P 2

特集

平和を創ろう！

同時多発テロから一年、
私たちが感じたこと、
これからできること



△はじめに▽

この一年、アフガンやパレスチナのことから（戦争体制に向かっている）として、日本の状況もふくめず、ずっと頭が離れずにきました。今できる事として、アフガンの復興支援をしている人たちの支援をしたり、パレスチナについて語る人たちの本を読んだりしてきました。平和を創る会の人々から時々届く情報やメッセージに、どれほど力づけられたことか。

どうすれば戦争で苦しむ人がなくなるのか、解決の道はまだまだ分からないけれど、関係ない事とせず、仕方ない事と諦めず、考え続けていこうと思つてます。そして、そんな行動の一つとして、今回平和について特集することにしました。

平和を創る会へのお便りや十月号に同封したアンケート結果（回答25）をもとに、まとめてみました。アンケート集計は、今城さんと井上さん。今回掲載出来なかったアンケート回答は、今後コーナーを作つて紹介していくつもりです。（野本）
（まとめ）あんふぁんて・平和を創る会

△アンケート回答から▽

1. 米のアフガン攻撃はその後のテロ防止に役立ったと思う？
役に立ったと思う 0 6 18 1
役に立ったと思わない わからぬ
その他

2. 同時多発テロやアフガンでの戦争について、子どもたちから質問された？
●質問された 4 16 5
●特になかった 無記入

3. テロ以降子ども遊びや行動に変化は？
●変化を感じた 4 19 2
●特になかった 無記入

4. 自分自身は何か変化を感じた？
●変化を感じた 6 19
●特になかった 無記入

- 多くの地域で苦しむ人がいるのに、何もできない自分にいらだちを感じる。
- 世界に目を向けるようになった。
- 戦争を実感、今を大切に生きようと思った。
- 国際結婚なので夫婦でよく話題にする。

5. 日本から自衛隊がインド洋に派遣されたことについて、どう思いますか？
必要だと思ふ 1 7 4 12 1
必要だと思わない 分らない
その他

6. 有事立法は必要だと思えますか？
必要だと思ふ 2 2 19 2
必要だと思わない 分らない
無記入

7. アメリカ中心のイラク攻撃姿勢は？
当然 2 4 19 0
おかしい 分らない
無記入

8. どうすれば戦争のない世界が創れる？
そのために何をしていく？
「戦争にNOと言う、出来ることを努力するなど」 2 9 6 8
「何が起っているのか知る、異文化を理解する、権力等について勉強するなど」
「子どもに伝える、人材の教育など」
「その他」

△自由記述から▽

＊女性が自立し、自分で考え行動し、政治にも関心を持つ。
（東京）

＊戦争の背景には様々な理論や利害、数々の正義が存在するのだから、こういふときに「いかに相手を許せるか」について語れるのが本場の宗教ではないだろうか。キリストでもイスラムでも仏教でも全宗教をあげて「許し」を説くことは出来ないのだろうか。きれいな事ではないレベルで。（東京）

＊自分の身の回りで「暴力」にNOを言い続ける。自分の子でも人の子でも手を振り上げた子を体張って「ぎゅー」（だっこ）しに行く。だけどそうしながら思う。大人の立場と体の大きさを保持してそれをすることは、相手にしてみれば暴力じゃない？！私の言葉が彼らに届くよう説得し尽くさなきゃ、じゃない？！偉そうに「身の回りから暴力をなくすんじやー」と叫びながら、私は私の中の短絡にふと気づき身も世もなく恥じる。そして一歩も進めなくなる。だけど何かしなくちゃ、何も変わらない。（宮城）

＊異文化交流・異文化理解が戦争をなくす基本だとわかってはいるが、実行に移すのは難しい。「アフガニスタンに女性の学校をつくる」運動をしているスルタニさんの会に出席、たとえ少額でもお金という形で応援するのが夢を実現するためには必要不可欠なのだと思ふ。（東京）

＊21世紀を生きる子ども達には相手の違いを認めることの出来る人になってほしいと思ふ。自分のことも相手のことも尊重できるように社会になれば、先進国の価値観でグローバル

化を推し進めたたり、その価値観にあわない国々を排除したりすることを少しは止めることが出来るかもしれない。自分が出来ることは大変な地域で活躍しているNGOや様々な団体を支援していく事ぐらいだろうか。（千葉）

＊戦争の原因は様々だが「思想の違い」が大きな要因になっていると思う。だからそれをなくすのは不可能に近いかもしれない。そんな中で自分出来ることといえば、我が子に「命の大切さ」や「思いやりの心」を教えること。そして国内の政治や世界情勢を、勉強して理解しようとする。（長野）

＊戦争のない世界を創るのは正直無理だと思ふが、平和を願う人を増やすことは出来ると思ふ。戦争を好む反社会的性格は遺伝的な要素も強いと聞く。が、平和な環境をつくってあげること、反社会性が開花することをかなり防げると思う。（東京）

＊「ベイフォワード」という映画で、主人公の少年が自分から他人から受けた喜びを他の人に返していけば皆に幸せが訪れると言った。私は理想ではあるけれど、基本的に人間は皮膚一枚剥けば同じ生き物と思ふので、〇〇人男女、老人若者関係なく、その人そのものを見つめて接していけば、手をつなぎあえると思ふ。攻撃は恐怖の裏返しだから恐怖のない世界を求めたい。（高知）

△お便りから▽

一年経って 大阪市
せっかく「平和を創る会」のメーリング・リストを作ってくださいのに、自己紹介も出来ないままに月日だけが流れてしまってます。テロ以来、言葉を見失っています。

△映画を見て考えました

練馬区
九月十一日の「筑紫哲也NEWS23」で、この日をテーマにした短編映画集やりました。言語を超えた各国の映画監督のメッセージが、私は心にしみみて、いろんな悲しみや疑問がモクモク湧きあがってきまして。同時に、私たちがなぜアートを作るのか、作らずにいられないのか、そしてアートに惹かれるのか、その答えを見たような気がしました。残念ながらビデオの失敗で、今村昌平監督作品は観られませんでした。くやしー。観た人いたら教えて？

△映画のこと、その他のこと

名古屋
末本さんの言う短編映画、フランス人の企画の「SEPTEMBER」です。世界各地の何人かの監督が、お互い他の人の作品を知らずに撮ったオムニバスとか。中東の国の監督の作品が、反米的なんでアメリカでの上映が見送られたとか。私も見られなかったけれど、今村監督のは終戦間際の日本が舞台なんですよ。上映会とかビデオの企画、ないんですかね。

この集会は、「テロ特措法、海外派兵は違憲、市民訴訟の会」が主催して、十月二十日に行われました。市民訴訟の会は、9・11事件の発生以降、アメリカ軍のアフガン空爆により、テロ被害者の数をはるかにしのぐ多数のアフガンの人々が殺され、傷付き、家を失ったこと、そして日本がその戦争に「テロ対策特別措置法案」をあえて作ってまで、自衛隊を海外に派遣してアメリカを支援協力している事にいたたまれぬ思いをしている人たちによって始められました。

日本が平和憲法に全く逆行していくのに対して、とにかく司法権から歯止めをかけようと、一人の主婦が呼び掛けを始めて、全国にひろがっていった。二五三人の原告が集まり、五人の弁護士の協力を得て、七月十一日にさいたま地方裁判所に訴えを起こしました。私も、名ばかりですがどきどきしながら原告となりました。

今回の集会は十月三十日の第一回の口頭弁論を前に、山内敏弘さんという憲法学者を招いて、開かれたものです。山内さんのお話を聞いて、この間アメリカ政府がやってきたアフガン空爆や、これからやろうとしているイラク攻撃は、第二次大戦後、紛争を平和的に解決しようとしてきた国際政治の流れを全く無視した行為なのだという事を、改めてハッキリと感じました。

ブッシュ大統領の語る論理は、子どもの目からもおかしいものなのに、(自分は武器を

「アフガン参戦、有事法制、イラク攻撃を考える」集会に行ってきました。

さいたま市

この集会は、「テロ特措法、海外派兵は違憲、市民訴訟の会」が主催して、十月二十日に行われました。市民訴訟の会は、9・11事件の発生以降、アメリカ軍のアフガン空爆により、テロ被害者の数をはるかにしのぐ多数のアフガンの人々が殺され、傷付き、家を失ったこと、そして日本がその戦争に「テロ対策特別措置法案」をあえて作ってまで、自衛隊を海外に派遣してアメリカを支援協力している事にいたたまれぬ思いをしている人たちによって始められました。

日本が平和憲法に全く逆行していくのに対して、とにかく司法権から歯止めをかけようと、一人の主婦が呼び掛けを始めて、全国にひろがっていった。二五三人の原告が集まり、五人の弁護士の協力を得て、七月十一日にさいたま地方裁判所に訴えを起こしました。私も、名ばかりですがどきどきしながら原告となりました。

今回の集会は十月三十日の第一回の口頭弁論を前に、山内敏弘さんという憲法学者を招いて、開かれたものです。山内さんのお話を聞いて、この間アメリカ政府がやってきたアフガン空爆や、これからやろうとしているイラク攻撃は、第二次大戦後、紛争を平和的に解決しようとしてきた国際政治の流れを全く無視した行為なのだという事を、改めてハッキリと感じました。

ブッシュ大統領の語る論理は、子どもの目からもおかしいものなのに、(自分は武器を

世界で一番いっぱいもっているくせに、気に入らないやつが武器をいっぱいもっているからといって攻撃する(という論理)、なぜ国際社会でまかり通ってしまうのか。なぜ日本政府が追従しないといけないのか。

これをこのまま許してしまうと世界中がアメリカ政府のいう事を聞かなくちゃならない。あるいは戦争に突入しなくてはならない状況になってしまいう。ほんとに、何とかしてこの流れをとめたい、という思いを強くしました。

裁判の勝敗だけで、国の施策や方針が変わるわけはありませんが、私達の声を裁判所(国)にちゃんと届かせる機会をつくり出す事に意味があるし、多くの人に伝えることもつながるでしょう。いろんな方面から戦争を許さないという声をあげていく事が今必要なのだと思います。それぞれの立場から、身近なところから、思い付くやり方でどんどん声をあげていきましよう。

第二次原告、会員募集中です。興味ある方は、市民訴訟の会まで連絡してみてください。

★テロ特措法、海外派兵は違憲、市民訴訟の会 問合せ・連絡先 電話・ファックス

くして世界の平和はあり得ない、と考えるようになった(はしよりすぎて話がわかりにくいかもしれないが、このへんはミンデルの、「紛争の心理学」を参考にしていただけと嬉しい)。(P7参照)

もちろん、それだけじゃない。この世界は今、既得権益に属する人々が作り上げたシステムにかなりの部分をコントロールされ、戦争という名の大量虐殺もまた、そのシステムの保全や利益追求、力関係による駆け引きなどから引き起こされている。だからその仕組みを知って、システムを突き崩すようなゲリラ活動、様々な社会の局面において、様々なアプローチで行っていく必要があるのだ。

つまり、大急ぎで結論を言うならば、まずは知ること、気づくことが出発点なのだと思います。平和な世界を創ることは、決して一足飛びに、簡単にできることではないが、だからと言ってイコール不可能ではない。絶望すれば、あきらめればそこで終わり。大多数の人々の絶望やあきらめにあぐらをかいて、現行のシステムは安定成長しているのだから、私達は決して、あきらめちゃいけない。気づいた一人ひとりが自由闊達に、自分らしく、自分でできるゲリラ活動を行っていくことこそ肝要だ。

こんなことを書いてる今も私は、胸を張って「平和な世界を創るためにこれをしていきます」と言えるようなことは何もしていません。でも、今の私はそんな自分に絶望していない。私は私なりのゲリラ活動をどう進めるか、模索を続けているから。それに、内



面の平和を心がけ、日常を通じて、また仕事を通じて隣人に愛を伝えたい、そこから世界に愛を広げていきたい...と夢想しているから。糾弾者にも、殉教者にも、被害者にもならないこと。そしてできる限り、加害者にならずにすむように、システムに加担せず生きられるようになっていくこと。間違った社会のシステムにNOの声をあげて行くこと。やるべきことはあまりに多い。考えることも、学ぶことも。

でも、だからこそやりがいがあるんだよね。私、この星をもっと平和で、愛にあふれる、幸せな星にしたい。同じように願う人々が、それぞれに、様々な素晴らしい活動をしていることも知っている。だから、たとえ死ぬまでそんな世界が実現しなかったとしても、結果として自分が大して役に立ってなかったとしても、自分がそこに向かって歩いていることは忘れないで生きていきたい。今はそんなふうに思っている。



どうすれば戦争のない、平和な世界を創れるのか?

大田区

去年の9・11は直接の被害者のみならず、私たち人類を大きく揺さぶる大惨事(犯罪)だったと思う。神戸の大震災のときも、「あれ以来変わった」という日本人は多かったが、今度は世界中で少なからぬ人々が「いてもたってもいられない」気持ちになり、「何が自分のできるか」を考え始め、そして様々な自分なりの「平和な世界を創る」ための行動をスタートしたように見える。

ここで、「私もその一人である」とカッコよく続けたいところだが、そうはいかない。実際の私はインターネットを始めとする様々な媒体で、そんな人々の様子を身ににし、目にするたび、「何もしていない」「何もできない」「自分を突き付けられ、そんな自分がかっこわるいばかりの日々だった。」

そして私は、そんな自分に対する嫌悪と絶望的な気分の中で、ずいぶん考えた。時間があれば「これは!」と思う活動に参加して、共に行動することが出来る。お金があれば、「これは!」と思う活動に寄付して経済的なサポートができる。でも私はしよせん、ピンポイントな活動のシンブルマザー、経済ドレイのごとき無力な庶民に過ぎない。できることなんかないし、世界なんか変えられっこない



息子と見る反戦映画

◆「西部戦線異状なし」

第一次世界大戦のドイツ部隊。「戦争に行け、国を守れ、立派な兵士になれ！」とだれもが叫ぶ中、若い青年たちは勇んで戦地へ。苦しく、辛く、貧しい残虐での生活と激しい防弾戦の日々。友人が心や体を病んで次々と死んでいきます。ある日の兵士たちの会話が印象的。「戦争を始めたフランスが悪い」「国と国の対立だ」「ドイツの山がフランスの平野を憎むのか」「バカ、国民同士の憎みあいさ」「そんなら俺、関係ねえ。だれも憎んでないから」「張本人は英国かな?」「会ったこともない英国人を殺したくないよ」「あいつらだってそう思っているだろう」「熱病みたいなものだ。だれも望まないのに広がる」「こうすればいい。原っぱにロープを張って両国の皇帝と大臣を入れ、パンツ一丁に棍棒を持って戦わせ、入場料をとって観戦するんだ」。

主人公のポール(演ずるリュ・エアーズがとてよよい!)は、防弾戦の中、追われて逃げ込んだ残虐で、滑り込んできたフランス兵を撃ち、初めて人を殺してしまいます。目を空に向けたまま死んでいく兵士。「大変なことをしてしまいました。軍服さえ着ていなければただの人間なのに。人と人はなぜこんな殺し合いをするのだろう。許してください」と泣き寝入るポール。

休暇で帰った郷里では、戦争の現実とのギャップに返って心が疲れ、戦地に戻ったある日。

日。あたりがシーンと静まり返った瞬間、残虐の外に一羽の蝶々を見つけます。手を差しのべ外に出たところを敵に撃たれ死んでいくシーンには有名。彼が死んでも「西部戦線異状なし」という通知がただ流れるだけという、戦争を兵士の側からしっかりと描いたとても切ない反戦映画です。息子は、戦争を志願していくときの青年たちの危ない目が印象的だったようです。

1930年ユニバーサル映画。モノクロです。ドイツの作家が書いた反戦小説をアメリカが映画にするなんて、今では考えられない話。アメリカの良心はいつから映画からも消えてしまったのかと思います。(小田島)

じっくり観る女性映画

◆「チャドルと生きる」

チャドルとはイスラムの世界(ここではイラン)で女性が使用を義務付けられているベールのこと。ちなみにタバコも旅行も女性には許されていないとか。アフガニスタンやその周辺のことを知りたいと見たのですが、カメラワークや構成もすぐれた、見ごたえのある女性映画でした。戦いや貧困の問題にささいや、だからこそ女性の問題はもっと深刻に存在するのです。

刑務所からの仮出所中(なにしろタバコを吸ってもつかまるくらいだから何の罪かはあやしいが)に逃げようとする三人の女性の話を中心に、出産前検査とちがって女兒が生

娘と読む本

◆「娘と話す 非暴力ってなに?」

ジャック・セムラン著 現代企画室 1,000円

経済侵略に対してはテロを、テロに対しては報復行動を...と、とかく暴力的になってしまふ今の世界。でも、暴力に対して暴力以外の方法で戦うって、どういうこと?と思っただけで済ませたが、十三才と八才の自分の娘に教えるために書かれているので、私にもとてもわかりやすかったです。

非暴力というのは単に受身なのではなく、暴力を使わないで暴力に対抗していくという積極的な行動。そして非暴力を成功させるためには、相手を尊重することと自分に自信を持つことが大切。キング牧師を中心にした、「黒人たちがバスに乗らない運動」や「子ども達の間のけんかやゆすり」「フランスの農民たちの羊を使った抗議行動」などの具体例がたくさん示され、「行動すること言葉によって伝えることの重要性を感じました」。

ただ、熱し易く冷め易い、自分さえ良ければという人間がほとんどの今の日本では、非暴力の活動を根付かせるのは難しそうです。

「娘と話す 宗教ってなに?」
ロジェ・ポール・ドロワ著
「娘と話す 国家のしくみってなに?」
レリス・ドブレ著
との三冊シリーズ(各1,000円)。薄くて読みやすいので、読書家でなくても大丈夫。(川崎)

起っていることを理解するために

◆「アホでマヌケなアメリカ白人」

マイケル・ムーア著 柏書房 1,600円

著者は映画監督でもあり、今年のカンヌ映画祭では米銃社会をユーモラスに描いた「ボウリング・フォー・コロンバイン」が高い評価を受けたそうです。津賀はまだ読んでいませんが、このような本が9・11以後発売され、全米でミリオンセラーとなり、「ニューヨーク・タイムズ」二十七週連続ランキング(新聞広告より抜粋)とは、良い兆候。

反骨のジャーナリスト兼映画監督による、ブッシュ・アメリカへの痛烈な風刺と笑いが満載!Aこれが、俺たちがNo.1 百万長者の数、俺たちがNo.1 億万長者の数、俺たちがNo.1 軍事予算の総額も、捨てるゴミの量も、二酸化炭素排出量も、記録された強姦件数も、批准していない国際人権条約の数でも、少年犯罪者の処刑の数も、俺たちがNo.1 :こんな国家に誰がした!?

◆「非戦」 監修 坂本龍一十

sustainability for peace
幻冬舎 1,500円

この本は9・11以降、主要メディアでほとんど目にするのできなかった世界の知性による数々の論考をまとめ、一年前に緊急出版された一冊。主として音楽家の坂本龍一さんとその知人たちの間でメール交換されていた

まれて離縁されそうな話や、実の兄弟に追い出されて墮胎を知らずの病院に頼みに行く話、貧困から幼い娘を棄てようとする母親の話、娯楽の話などがうまくつながっていきます。何人もの違う女性の話なのに、いつしか自分が追われているようにも思えてドキドキ。映画館を出たら、やけに明るくて物があふれまくった渋谷の町がウソッパチに思えて、むなし限りでした。

四月号でとりあげた「カンダハール」と同じイラン映画。2000年度ベネチア国際映画祭金獅子賞受賞。配給は「ギャガ・コミュニケーションズ」(東京都港区六本木)

★オマケ情報★

イラン映画「酔っぱらった馬の時間」はイラク国境の村に住む幼いクルド人兄弟姉妹のけなげさに泣けます。(古知)



情報が中心だが、戦争はなぜ起こり、止められないのか?が見えてくると同時に、世界中の心と知性ある人々のたくさんの声に勇気づけられる。

◆「9・11アメリカに報復する資格はない」

ノーム・チョムスキー著 文芸春秋 1,143円

マサチューセッツ工科大学で言語学の教鞭を取るノーム・チョムスキーは、アメリカを代表する知性の一人。このチョムスキーが、「アメリカこそテロ国家の親玉」であると語り、数々の史実をもとにアメリカ政府とその追従者の論理がいかに矛盾を孕んでいるか、堂々たる論理を展開している。「アメリカに報復する資格がない」理由が、よくわかる一冊。

◆「紛争の心理学」 A・ミンデル著

究極の暴力「戦争」から些細な口論に至る、あらゆるレベルの紛争や対立を解決するために、私たちが学ぶべきことは何か?「対立、混乱のプロセスそのもの、その全体から人は学び、成長する」というミンデルの思想とワークショップの方法論が実に興味深い。対立・衝突の炎を溶かす、内なる力に目覚めるには? 平和な世界を創るには? そのための智恵がここにはある。(津賀)



起っていることを理解するために

◆「ドキュメント戦争広告代理店

情報操作とボスニア紛争」

高木 徹著 講談社 1,800円

ボスニア・ヘルツェゴビナとセルビアが敵対する形で起きたボスニア紛争。特に利害関係がないNATO軍が、ボスニア・ヘルツェゴビナに同情した西諸国の世論の支持を背景に、セルビアを空爆した。しかしその世論は、アメリカのPR企業が「仕掛けた」宣伝によって市民が信じこんでしまった「事実」によって形成されていたらしい。

この本は、二〇〇〇年十月に放送されたNHKスペシャル「民族浄化」を制作したディレクターが書いた。番組に盛り込まなかった取材成果や最新情報を盛り込んで一冊にまとめたものだという。番組を見た人がいるかもしれない。残念ながら私は本を読んで初めてここに書かれていた事実を知った。

ボスニア・ヘルツェゴビナはアメリカのPR企業へ自国に有利な宣伝を依頼。外相が祖国を攻撃される悲劇の主人公に仕立て上げられ、「民族浄化」というキャッチコピーが巧みに作られマスコミから流れる。「善良な」アメリカ国民がそれを信じて行く過程にぞっとした。私たちが、マスコミで流される情報からよその知らない国を知った気になって批判することがありはしないか。でも、報道の裏で情報操作する企業があったとしたら…。ボスニア紛争だけの問題ではないとしたら…。(今井)

アメリカ発の反戦コミック

◆「戦争中毒ーアメリカが軍国主義から

脱け出せない本当の理由」

ジョエル・アンドレアス著

合同出版 B5判/72頁 1,300円

アメリカが戦争をするのは、正義のため？ 平和のため？ 登場人物はすべて実名、その発言はすべて実録！とのこと。

中二の息子も読んで「もともとアメリカは批判されるべきだ」などと語っていたが、やっぱりマンガは大人も子どもも気軽に読めるところがいいよね（そこがまず、この本のウリ！）。もちろん内容も悪くない。日本人ゆえの「日本病」に注目しがちで、そのぶんアメリカの問題はおろそかにして来たが、これを読んでアメリカの病理を改めて思い、そのアメリカの「戦争中毒」にがっかり組み込まれた日本と世界を思った。しかも、それが日本ではほとんどまったく問題にされていないんだから、まったく根が深い。アメリカ批判にとどまらず、本書がこうした現実への取り組みを考える一歩になったら…と思う。(津賀)

第1章・明日なる神の意志
第2章・「冷戦」と自称「世界の警察官」の功績
第3章・「新世界秩序」
第4章・テロとの戦い

あんふぁんてから

あんふぁんてへ

282号で紹介された「生きづらい母親たちへ」読みました

練馬区

親から私、私から子どもへの子育てを考える上で、とても参考になりました。親の価値観を押しつけられ、何の疑問も持たず、反抗もせず、親の言いなりになった私。子どもを産み、育てる上で、私も私の子どもに「子どもの為」と言いつつ、親が私にしたのと同じ「押しつけ」を繰り返して、言う通りに動かない子どもにイライラしたり、自分が子どもの頃同じ事をされてイヤだったんだあ！と思ひ出したり。

本の中の体験談も、親・私・子どもの関係を考えて直させるものでした。体験談を寄せている母親たちほど壮絶な苦しみの中にいるとは思えない私ではありますが、母親たちが楽になったセルフヘルプ・グループへ参加したことも思い始めました。まだ、一歩前になる勇気がわかず、グループの問い合わせも行っていませんが、本の中で同じ悩みの母親がいる事を知るだけでも、「助かったあ」という気持ちになりました。

セルフヘルプ・グループの事も知っている方がいたら教えてもらいたいです。また、沢山の本・紹介してください。楽しみにしています。

高等学校の授業に来てください

さいたま市

長寿社会文化協会主催の子育て支援セミナー「あんふぁんて」を紹介するために出かけたのをきっかけにミルク会社の方との関わりが生まれて、私の勤めている高等学校で授業をして貰えることになりました。ミルク事情も日進月歩ですね。ミルク会社も随分ふえました。ミルクの成分もさることながら、ミルク瓶の形にも驚きました。

当日は(株)アイクレオの管理栄養士の方に来ていただきました。そして、実際に赤ちゃんのお母さんに授乳指導をしている時の様子など話してもらったり、母乳は自分の子どもに最適な栄養素が含まれている、「オーグーメイド」のミルクであることを教えていただきました。

どうしたらミルクが母乳に近づくか研究が重ねられていることがよく分かりました。一度は教科書を使って勉強している内容でも、実際に現場で仕事をしている方の話に勝てるものは無いのです。その後の調乳実習では、ミルクが黄色い(病気から子どもを守るためにβカロチンが添加してある)事にビックリしたり哺乳瓶から飲んでみたりと楽しい授業になりました。味見をした生徒の感想は、あまり美味しくなかった、粉だと美味しいけれどお湯に溶かすと美味しくなかった、昔に食べたミルクパターの味がした、今ではこんな物は飲めないなどでした。

十一月には会員の古田島 さんに絵本の読み聞かせと語り・手遊びの授業をして貰う予定です。生徒は先生以外の方から話を聞く

第5章・軍国主義の高い代償

第6章・軍国主義とマスコミ
*平和を創る会では、この本の出版サポートとして十冊購入したので、希望者に販売します。希望者は、郵便又はFAX、又はメールで今井 さんまで申込を。

※「戦争中毒〇冊希望」と、冊数も明記して。本に振込用紙を同封するので、代金+送料1,160円は郵便局から振り込んで下さい。(振込時手数料70円がかかります)



△特集を終えて▽
子どもをめぐるトラブル、仕事、リストラ、晩御飯のおかず、日々の暮らしに追われる私たち市民には「平和を創る」なんて遠い話だわ…と無力感に襲われることもあるけれど、知ること、できることから始めること、平和の大切さのわかる子どもを育てること、一つ一つが大切なんだと改めて思います。(川崎)



高校生と赤ちゃんのふれあい

注目されています

さんが授業で実践している「赤ちゃんを学校に連れて行き高校生たちと触れあう」体験は、厚生労働省も注目しています。育成環境課の「子育て家庭支援事業」の中の「一年長児童(これは中学生が中心)の赤ちゃん出合い・ふれあい・交流事業」がそれで、中学生が赤ちゃんに触れあうことで他者への関心や共感の能力を高めることができ、子育ての予備体験にもなるというものです。平成十五年度予算に組み込まれます。また、カナダのメアリー・ゴードンという人も「共感教育」というプログラムを作り、年数回の赤ちゃんの学級訪問で生徒たちが命の大切さや自分が生まれ育つことの豊かさを考えられるよう指導しています。こういう取り組みの大切さが認識され、各地の学校で風通しの良い授業が実践できるようになるといいですね。(事務局・川崎)

【2002. 3. 10~2002. 9. 30】

〈入の部〉	
①東京都の助成金	424,000
②本の売上	1,340,000
③送料分収入	381,080
④カンパ	342,894
⑤借入金	520,000
合計	3,007,974
〈出の部〉	
⑥印刷費	1,062,064
⑦外注制作費	1,140,000
⑧郵送費	721,160
⑨発送スタッフ費	65,580
⑩宣伝費	19,170
合計	3,007,974

おかげさまで無事に出版することができたお産本も順調に売上をのぼしておりますが、わかりにくくなるといけないので、あんふぁんて全体の会計報告とは別に、とりあえず本だけの今期分収支を見てみたいと思っております。ちなみに本の制作そのものは以前からやっておりますが、お金の出し入れは会計期間の3月10日からです。

〈2002年3月10日~9月30日〉

『お産サイドブックⅡ』
【会計報告】

①の助成金は当初100万円の予定でしたが、いろいろの変更有り、最終的にはこの金額になりました。

②の本の売上は1340冊分、あと660冊の残部があります。

③の送料は何冊かまとめての方や手渡しの方、ほかの本と一緒に購入された方などがあるのでさまざま、そのトータルの額です。

④のカンパは大口・小口さまざまですが、本にありがとうございました。

⑤の借入金現在まだ残っていますので、とにかく本をあと最低520部は売らなくてはなりません。

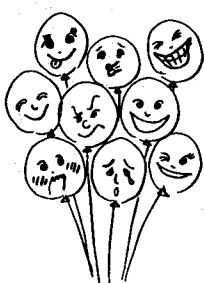
⑦はイラストやレイアウト・デザイン、入力や校正などです。

⑧には図書館や女性センター・保健所などへ寄贈した100冊分の送料も含まれています。

⑨は全国の新聞などへの掲載があるとその電話受け付けと本を送る作業がとて大変だったので、有料での手助けを頼みました。

⑩はチラシなどの印刷が主です。

つまり、ただいま52万円の借金があるけれど、残部が売れば、なんとかかなるのではないかとこのころです。ぜひ、あとひとがんばりの販売協力をよろしく！（古知）



事務局から

●2002年ももう終わりですが、『お産サイドブックⅡ』作りで幕を開けた今年、いろいろの事がありました。特に最近では少子化対策もあって、「子育て支援」関連団体のメッセや「子育てサークル」のネットワーキングの催しが目白押し、あんふぁんてもあちこちで展示発表や事例報告をしました。イベントスタッフも募集したところ、数名来てくれてよかったです！近いうち紙面でも報告します。

●今月号には新『グループ・リスト』が同封されています。グループ連絡窓口の人は、電話番号等間違いがないか確認してください。他の会員はどんなことしてるの？と思う人、これから仲間作りしたい人、参考にしてください。

●11月末の会員数は310名です。

スケジュールメモ

12月25日(水)~1月7日(火)事務局冬休み
*この間の事故等の連絡は封書で事務局まで
1月15日(水)ミーティング (事務局)
1月27日(月)1・2月合併号発送(事務局)
※どちらも10時半~3時程度。子連れ可・弁当持参、参加希望者は事前に事務局まで。

●あんふぁんては、会費のみで運営している会。会費の支払いがまだの人は、至急振込をお願いします。会費が切れても本人から連絡がないと、退会や休会の措置がとれません。休・退会、転居の時は、事務局まで連絡を。

あんふぁんて全体の会計報告です！

【2001年10月~2002年9月】

〈ごまかな説明〉

②はお産本との相乗効果で「ひとりて子育てしないで『密室育児からの脱出』や資料代のお金が多かったのが大助かり。
③は子育て広場『トライアル』の収入分ですが、経費は⑭のようにあり、なんと赤字なのです。会場費が有料になったのもいい！しかもせつ

かく保育の人手を用意しても、こつも利用が少ないとがっかりきて、むしろスタッフのパワーダウンがこわいところ。①が最も大事なんだけど、お産本の効果はまだあまりでないよう。昨年9月には346名いた会員が、2月に254名までに減ったけれど、今年の9月は308名と若干もちなおし気味。
⑮としてスタッフ費を復活させたけど、肝心のスタッフのなり手が少なく、拍子抜け。

【2001. 10. ①~2002. 9. 30会計報告】

〈入の部〉		
①参加費	1,879,490	2,100,000
②雑収入	211,233	240,000
③企画収入	19,700	180,000
合計	2,110,423	2,520,000
〈出の部〉		
④会報印刷費	417,510	420,000
⑤会報郵送費	250,350	336,000
⑥保険料	120,000	120,000
⑦事務人件費	960,000	960,000
⑧事務局家賃	120,000	120,000
⑨事務通信費	149,067	120,000
⑩事務印刷費	9,970	12,000
⑪事務用品費	12,982	12,000
⑫資料費	9,000	0
⑬交通費	180,000	180,000
⑭企画経費	26,850	0
⑮スタッフ費	49,180	240,000
合計	2,304,909	2,520,000
総収支	▲194,486	

【繰越金】

〈A〉2000年度より	814,360
Ⅰ現金	249,489
Ⅱ郵便口座	164,871
Ⅲ定期貯金	400,000
〈B〉2001年度総収支	▲194,486
〈C〉2002年度へ	619,874
Ⅳ現金	30,833
Ⅴ郵便口座	189,041
Ⅵ定期貯金	400,000

《これからに向けて》
今年度とはかくお産本をつくることや、事務局も子育て支援メッセなどのどつちかというところと行政向けの動きが多

【予算】(会員数350名想定)

〈入の部〉		月額	年額
(ア)参加費	175,000	2,100,000	
(イ)雑収入	18,000	216,000	
(ウ)企画収入	5,000	60,000	
合計	198,000	2,376,000	
〈出の部〉			
(エ)会報印刷費	35,000	420,000	
(オ)会報郵送費	28,000	336,000	
(カ)保険料	10,000	120,000	
(キ)事務人件費	80,000	960,000	
(ク)事務局家賃	10,000	120,000	
(ケ)事務通信費	10,000	120,000	
(コ)事務印刷費	1,000	12,000	
(サ)事務用品費	1,000	12,000	
(シ)資料費	1,000	12,000	
(ス)事務交通費	15,000	180,000	
(セ)企画経費	2,000	24,000	
(ソ)スタッフ費	5,000	60,000	
合計	198,000	2,376,000	

く、新入会員増にはあまり結びつかなかったと反省。これからはお産本購入者が産後に入会するだろうことや、インターネットからの問合せが今後増えるだろうということを想定してのなんらかのアプローチを工夫していく必要があると思います。いいアイデアがあったら聞かせてください。

また、『トライアル』をもっと活発にしたいための提案など、現在の会員が積極的にアクションをおこすようなことも模索したいところ。少々いきぎれ気味のスタッフにフレッシュなパワーを注入してほしい！実際に動けなくてもいいから、メールやファックス・手紙、電話や投稿などをまっすよ！

(古知)

情報コーナー

★子育て広場トライアル

日時 1月22日(水)10時～2時エポック10
(池袋駅隣メトロポリタンプラザ10階)
保育室にて *子連れの方は15分前集合
3時までタウンワーク報告と引継ぎ

Aコース・子どもと一緒に遊ぶ

〔保育経験者と一緒に自分の子どももよその子どもと一緒に遊んだりおしゃべりしよう〕
Bコース・子どもと離れてしゃべりB(A場)
〔毎回テーマを決めて大人だけで話をします〕
ACワークショップや座談会ときもあり

Cコース・子どもを預けてタウンワーク

〔子どもと離れて行きたいところにGO!〕
費用・資料・保険代(大人一人500円)
保育・子ども一人200円(保育カード・保険証・子どもの昼食・着替えが必要)
申込締切 1月15日(水)まで事務局へ。保育定員7名*初回はAコースから。Bコースは大人のみの参加歓迎。

★『赤い鳥』連続講座

2002豊島区教育委員会委嘱学級テーマ
「私の愛する豊島」より

童謡『赤い鳥』を中心に当時の歌や朗読などを通して、子ども達の生活や子育てを知る事ができる等、親子で親しめる内容になります。会場の自由学園も必見の建物です。

日時12月21日(土)午後1時～4時

『赤い鳥』を歌う 自由学園講堂

『赤い鳥』を語る 自由学園 教室としま問合せ

★あんふあんでの新年会(託児付)で

いい年迎えよう!

年が明けると気分も何か違う気がするが、それは除夜の鐘のせい?それとも気のせい?なんにしても新年が明けたら、あんふあんでの仲間達と「今年をどうしたいか」なんかを肴にワイワイやりませんか?前回好評だった託児付です。

日時 2月1日(土)午後6時～9時

会場 三軒茶屋

場所 「KUPU-KUPU」高田馬場駅(早稲田方向へ進み「ルノール」角を左)歩4分

託児 一人千円(兄弟二人目からは五百円)
*託児代不足がある場合は、参加者で人数割しますご協力をお願いします。

申込先 あんふあんで事務局
申込締切 1月24日(金)

*託児なしの当日飛び入りは大歓迎

★世田谷子育てミニメッセ

私を応援してくれる子育て情報大集合!!

世田谷地域の子育て中の人たちに向けて子育てグループが大集合します。希望グループによるミニステージでの活動発表や相談コーナー。親子で楽しめる手遊びや人形劇、歌や芝居、おもちゃの診療所もあります。

日時1月21日(火)10時～午後4時

場所世田谷文化生活情報センター
(三軒茶屋駅 キャロットタワー4階)

主催子育てミニメッセを考える会・世田谷区問合せ あんふあんで事務局

あんふあんでホームページアドレス <http://>

第284号 (毎月1回5日発行)
2002年12月5日発行
(1975年7月26日初刊発行)

あんふあんで 12月号

発行人/
発行所/ あんふあんで出版部

電 (平日12時～2時それ以外FAX)

定価/ 500円
振替口座/
加入者名/ あんふあんでの会

! <新事務局の地図>

☆当会について詳細を知りたい場合、封書に〒・住所・氏名・☎を明記し、切手四百円分(なるべく少額切手)を送って下さい。入会希望の場合はなるべく会費六ヶ月分(三千円)以上まとめて、郵便局の振替口座に払込んで下さい。

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。